

結成35年の歴史に学んで さらに未来への希望をひらこう



大阪自治労連の単組から63人が参加し、32団体37人の来賓に出席いただきました

大阪自治労連2025年新春旗びらき 結成35周年記念トークセッション

1月6日に大阪市内で開催された「大阪自治労連2025年新春旗びらき」は、坂田委員長の主催者あいさつに続き、来賓の大阪労連・福岡議長、大阪自治体問題研究所・梶理事長、大阪自治労連弁護団・城塚代表、日本共産党衆議院議員・たつみコータローさんからあいさつをいただき、大阪自治労連顧問の徳畑勇さんのご発声で乾杯しました。

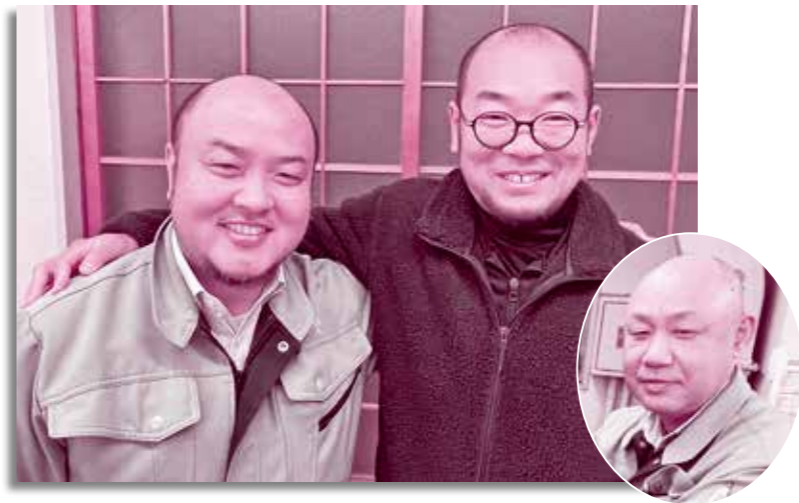
第二部の「結成35周年記念トークセッション」は、徳畑勇さん、塚元寛貴さん（大阪府職労）、國乗あゆみさん（東大阪市職労）をパネラーに、尾崎副委員長の司会で進めました。（2・3面に特集記事を掲載）旗びらきは丹野副委員長の閉会あいさつでしめくくられました。



泉佐野市職員労働組合

執行委員長 石谷 俊祐さん（保育士・児童発達支援センター）
書記長 井上 亮さん（事務職・人権推進課）
副委員長 昼馬 正積さん（前執行委員長）

「趣味は草野球と吹奏楽チューバかな」（石谷さん・中央）と「小学生からサッカーが大好き」（井上さん・左）を笑顔で見守る昼馬さん（右）



長年にわたり泉佐野市職労をけん引してきた昼馬委員長から引き継いで、昨年の秋より新しく選出された石谷執行委員長と井上書記長。昼馬前執行委員長（現副委員長）を交えて、新たな気持ちで大いに語っていただきました。

要求は
いつも
当局に聞き分けのよい
組合にはならない

**委員長・書記長は
多忙で大変だと実感**

石谷 「委員長はやることが多い」と大変さを痛感しています。偉大な昼馬さんに「嫌です」と断れなかったですね。

井上 前書記長の阿部さんが保育士で、仕事も組合も大変だったと思います。近くに昼馬さんがいて、心強いです。

**秋季年末交渉では
「実損回復」を追及**

石谷 交渉でも市職労は一貫して「実損回復」を当局に追及しました。千代松市長が就任し、すぐに賃金8%カットされたんです。あまりにも手取りが少なくて、その時の怒りが原動力になっています。
昼馬 組合加入された会計年度任用職員が障害をもつ子どもといったしよに交渉に参加して、「子の看護休暇を中学校ま

**現業から事務職へ
組合役員にも誘われて**

井上 ゴミ収集業務が縮小されて、将来を考えて現業職から事務職に職変し、すぐに役員に誘われました。

昼馬 この職変制度が問題点も多くて、職変しても現業で残っても大変でしたね。

井上 お金が必要な時に賃金カット攻撃を受けて、モチベーションが下がり、輪をかけて自分の仕事も大きく変わった時期だったので。

**たたかう市職労運動の
バトンを受け継いで**

昼馬 二人とも、当局の理不尽な攻撃に怒りもち、公開交渉や大幅な賃金カット強行

の交渉に参加し、市職労の重要な役割を肌身で実感しています。私自身が引き継ぎのない苦勞を体験したので、「じっくり引き継いでいくから」と約束して、要請しました。
石谷 昼馬さんのがんばりを継承したいですね。市職労が一方的に追及する交渉で、この3年は賃上げを勝ち取ったけれど、いつ賃金カット時代に戻るか不安があります。
井上 当局は「市長の意見が一番」という姿勢で、交渉でも「市長にお伺い立てる」としか言わない場面が多いです。

**苦渋の合意もあったが
要求に忠実にたたかう**

昼馬 いずれの時代も攻撃と要求がありました。組合は要求にもとづき團結する組織なので要求に妥協はなく、市の財政危機で全国的にも例のない苦渋の合意はあったんです。だからといって要求を控えたり、妥協したり、聞き分けがよくなったわけではなく、組合員の要求に忠実にたたかい続け、少しずつ要求が前進していると実感します。そんな私の意思を継いでくれた二人に心よりエールを送ります。共に、がんばりましょう。